

京都御所造営録——造内裏御指図御用記(一)

詫間 直樹 (宮内庁書陵部) 編

■体裁 B5判上製函入 本文三七八頁 口絵八頁

■第二回配本 第二卷(全五巻、年一回配本予定)

■定価 二九,四〇〇円(本体二八,〇〇〇円+税)

ISBN978-4-8035-0653-0 C3052

*前回ご案内の全四巻編成から全五巻編成へ変更になりました

■編者・翻刻者

詫間 直樹 (たくま・なおき)

一九五九年香川県生まれ。広島大学大学院文学研究科博士課程前期修了。現在、宮内庁書陵部編修調査官。主な著作として、『皇居行幸年表』(続群書類従完成会、一九九七年)、『裏松固禪の著作活動について——『大内裏図考証』の編修過程を中心として——』(『書陵部紀要』五五号、二〇〇四年)など。

■翻刻者

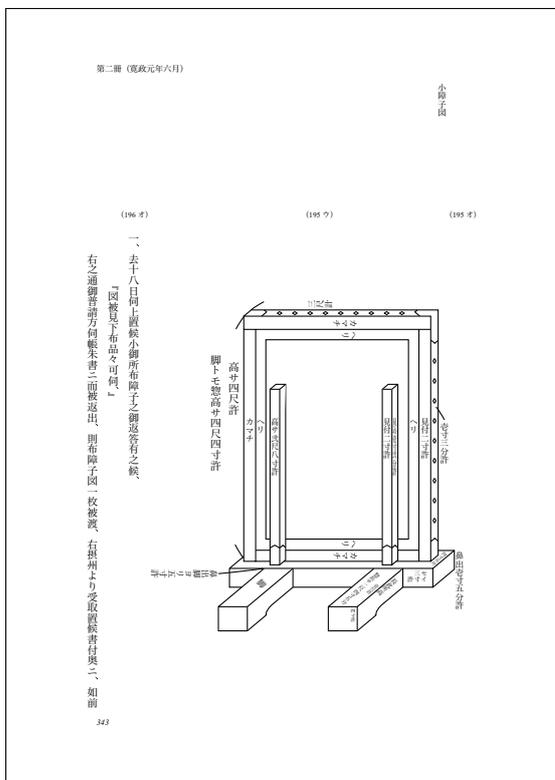
長坂 良宏 (ながさか・よしひろ)

一九八〇年群馬県生まれ。学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程在籍。主な著作として、『近世撰家相統の原則と朝幕関係』(『日本歴史』七二二号、二〇〇八年)、『近世太政大臣の補任の契機とその意義』(『近世の天皇・朝廷研究』二号、二〇〇九年)など。

■第二巻・内容

『造内裏御指図御用記』の第二冊(天明九年〓寛政元年正月四日条〓同年六月三十日条)の全文翻刻を行う。記主の勢多章純(一七三四—一七九五)は禁裏執次の職にあり、天明八年四月七日に造内裏御指図御用掛を命じられ、翌寛政元年も引き続きその任にある。この第二冊には、第一冊と比べて図面類がやや多く記されており、殿舎の門や調度などの図がいくつか描かれているという特徴がある。

■組見本40%縮少



宮内庁書陵部に所蔵される『造内裏御指図御用記』全八冊(函号一七五—一七八)は、禁裏執次で内裏造営の御指図御用掛を務めた明法博士大判事の勢多章純が記した、江戸時代後期の寛政年間に再建された京都御所造営に関する重要な基本史料の一つである。寛政度に再建された内裏は平安朝の復古様式を取り入れたものとして良く知られ、本史料はその間の事情と過程とを逐一明らかにするものであり、近世の京都御所研究には不可欠の史料と言える。

お取扱いは

中央公論美術出版

http://www.chukobi.co.jp

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834